

令和7年度第2回小金井市長期計画審議会 次第

日時 令和7年8月1日（金）午前9時00分から

場所 小金井市役所第2庁舎8階801会議室

- 1 後期基本計画における「重点テーマ（Focus Point）」について
- 2 グループワークについて
- 3 グループワークでの検討結果について
- 4 その他

■配布資料

- 資料1 後期基本計画における「重点テーマ（Focus Point）」について
- 資料2 令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

後期基本計画における「重点テーマ (Focus Point)」について

1 目的

後期基本計画は、10年間の基本構想の後半5年間を対象とした計画であり、将来像の実現に向けて、前期基本計画との継続性も考慮しながら、この間の社会情勢の変化や市の現状等を的確に捉え、未来を見据えた上で課題に取り組んでいく必要がある。

現在素案をご議論いただいている長期計画起草委員会や長期総合計画策定本部等からのご意見を踏まえ、後期基本計画において、全施策を通して特に注力すべき視点、意識して取り組んでいくべき視点を「重点テーマ (Focus Point)」として設定し、後期基本計画の特徴の1つとしていく。

2 重点テーマ

(1) 持続可能 (サステナブル) な地域社会の構築

環境、社会、経済、地域などのあらゆる分野がバランスよく発展し、将来にわたって持続的に誰一人取り残さない地域社会を実現していくことをめざす。

【視点①】

人口減少・少子高齢化社会への対応、担い手・人材不足、コミュニティの活性化、多様な主体との連携・協働、地域資源を活用した産業育成など

【視点②】

循環型社会の形成、カーボンニュートラルの実現など

(2) DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進による地域社会の発展

デジタル技術を活用して、利便性の向上や業務効率化等を図り、地域の課題を解決するとともに、市民の生活をより便利で快適に、そして安全・安心で豊かな暮らしを実現していくことをめざす。

【視点①】

行政サービスのデジタル化、市民の利便性の向上など

【視点②】

業務の効率化、働き方改革、人手不足の解消、生活様式の変革など

3 計画上の位置づけ

- 基本構想：将来像の実現に向けて、「まちづくりの基本姿勢」を念頭に、6つの政策を展開
- 基本計画：29の施策を具体化・体系化して推進
- 重点テーマ：後期基本計画期間において、基本計画の29の施策をさらに一押ししていくもの

4 計画への反映方法等

29の施策ごとに重点テーマを踏まえた方向性や取組等の特出しして記載することを想定している。

令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価
1	環境と都市基盤	1 みどりと水の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 花の植え替えイベントの参加者が多いことが評価できる。 アンケートの取り方によるが令和3年の満足度から下がっていることが気になる。 美化サポーター登録者数が令和6年度にかけて下がっていることが気になる。 子ども向け76人のイベント参加は成果である。 「主体的に協働して取り組む必要」があるということに対して、どのように課題に対応するかは今後検討してほしい。 美化サポーター参加人数が減っていることが懸念点である。参加人数を増やすことが目指す姿に近づくのではないかと。 子どもたちの参加イベントがあることは良いため、もっと活発にしてほしい。 美化サポーターの人数も団体が増えていたりするので成果あるとしても良い。 全体的に高評価である。 美化サポーターの直接的な勧誘が必要ではないかと。 イベントにおける苗木配布等一定の効果が出ている。
		2 循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 目標をおおむね達成できていて評価できる。 事業ごみの分別が課題となっているが、なぜ家庭ごみと違い分別を事業者から指示されないのか気になる。 廃棄物処理対策は評価できる。市民評価も高いことが良い。 市民一人当たりのごみ排出が減っているのは良いが、どんな取組による成果か周知できるとよいのではないかと。 ランキングが高いところをアピールすると良いのではないかと。 全体的に高評価である。 家電4品目の回収サービスの提供に係る連携協定は廃棄物処理体制の整備としてある程度評価できる。
		3 環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> 総排出量が多いとあるが、原因がわかる記載とした方が良い。 環境教育事業・森林教育事業等は評価できる。 省エネルギーに取り組む市民が微減しているとのことだが、このままでいいのか、もっと取り組めることがないかは市民が心配していると思うので、市民が何ができるかをわかるようにしたほうが良い。 「市民、事業者、行政が共同しながら取り組む」とは具体的に何を指すかわかりづらい。 健康との兼ね合いを考える必要があると思うので両輪で考えるようにした方が良いのではないかと。 省エネチャレンジは市独自の取組が良いが、市外の団体による補助事業が多い印象があるので、市独自の取組を増やしてほしい。
		4 市街地の整備	<ul style="list-style-type: none"> 駅の周辺整備が順調に進捗してきたにもかかわらず、今回は少し減少していることが気になった。 武蔵小金井駅北口や東小金井駅北口の整備には成果が出ていると思うので、引き続き自然と調和したまちを目指してほしい。 武蔵小金井駅北口の再開発の進捗が想定通りとの記載は適切か。 指標の伸び率を見ると「一定の評価ができる」として良いのか。目標からは遠くあと1年で10%指標を向上させる必要があるため一定の評価には違和感がある。 武蔵小金井駅北口の再開発状況の印象から、進捗率の減少に納得感がある。
		5 住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 生産緑地の記載は、本施策で重要なのがわからない。 住宅改修手続きが複雑というのであれば、簡易にできるよう対応すべき。 街路樹の維持管理と雨水の助成は一定の評価ができる。 農地のことは施策11に反映させると良いのではないかと。バリアフリーやマンション、耐震化等が本施策の課題と考える。 高齢者世帯への助成をしているのは理解したが、住環境には家以外も含むので横断的に進めてほしい。

令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価
1	環境と都市基盤	6 都市インフラの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や総括自己評価について、達成率を考えると一定の成果があるとは読み取れない。 ・「公式アカウントや電話等の情報提供を受けて対応した」という記載は、受動的な対応と受け取られてしまうのではないか。 ・無電柱化は一定の成果が上がっていないような印象がある。 ・市民から道路の異常等の情報提供を受け付ける取組は引き続き進めてほしい。 ・街路樹の老朽化は再開発状況などでエリアによって異なるので、エリアごとの対策が必要と考える。 ・無電柱化が進んでいないのに一定の成果が上がっているとの記載は違和感がある。 ・無電柱化は実施までに期間がかかる事業であるため、整備が完了して初めて数値として進捗が出ると理解している。整備中の計画含め今何をしているのかは書いてあると良い。 ・無電柱化は書き方次第で一定の評価ができると考えられるため、状況の把握ができるようにしたほうが良いのではないか。 ・無電柱化は計画していることを市民にわかりやすく伝えてはどうか。 ・都市計画道路の拡幅整備事業は安心な都市基盤整備に貢献している。
		7 交通環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・CoCoバス再編による影響から、満足度や達成度は評価に個人差があるのでやむを得ない。 ・放置自転車撤去等安全なまちづくりに成果は出ている。 ・バス運転手不足の課題を解決できると良いので、注目したい。 ・シェアサイクルが始まったので利用率等が見えると良い。自転車に乗れる人は限られるので、高齢者や交通弱者向けの取組も必要と考える。 ・交通環境は人手不足等社会問題が背景にあるので、進捗の停滞は致し方ない。
1	地域と経済	8 危機管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練参加者が13.9%と少ないので方策を練った方が良い。 ・災害対策のための備蓄があるのは取組として評価できる。 ・意識が高い人ばかりではないので、底上げはしてほしい。 ・防災フェスタが悪天候で中止となったそうだが、天候が悪くてもできるように考えてほしい。 ・指標3の目標との乖離が大きい。防災フェスタは何かしらの工夫が必要である。 ・備蓄している市民の割合の目標が低いのでは。もっと啓発した方が良い。
		9 地域の安全・安心の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自動通話録音機の貸し出しやセミナー参加者2,000人など一定の成果が出ている。 ・消費者被害を防ぐための講座実施など評価できる。 ・指標1は一定の評価という表現を使っているが、指標が向上していないため表現が適切か違和感がある。 ・課題の消費者教育とは何か。 ・強盗が増えているため防犯カメラやセンサーライト等への補助金対応を検討してはどうか。
		10 産業・観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・指標が公表されていないため評価が難しい。 ・観光まちおこし協会の補助など産業振興に寄与しているが、指標が出ていないものは評価できない。 ・実績が書けない項目が2項目もあるなら内容を変えて改善していけるものにした方が良い。 ・小金井市内の企業は少ないため、平日と土日で人の数が明らかに違う印象がある。よって、平日にも人が集まるよう何らかの取組をした方が良い。 ・既に行われている他自治体の駅前と同じような開発では差別化ができない点を懸念している。 ・指標の2と3が評価できないのはどうなのか。指標1も成果があるとしているが、上下を繰り返しているだけにも見えるので違和感がある。 ・数値が出てこない指標があるのは問題。 ・指標1が向上していることは良い。 ・イベント開催に向けた働きかけについて、市が意欲的ではない印象があるため積極的な取組をしてほしい。 ・課題と総括・自己評価に矛盾があるように見受けられる。 ・補助金以外の取組が必要である。
		11 都市農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・「前年度を上回る」とあるが指標からは読み取れないため、課題と総括・自己評価が矛盾している。具体的には、「イベントで魅力発信している」と「市民の理解の醸成が必要」という記載が両方ともあることは矛盾ではないか。 ・新規就農者への就農体制の整備支援やイベント実施は都市と農地が共存する市民生活につながるため引き続き進めてほしい。 ・農業をしていない人へのPRや理解を促すのは評価できる。 ・農地が減っていることへの対策は必要ではないか。 ・農地が住宅に代わっていることが気になっている。「農地のマッチング等の仕組みが整っていない」と書いてあるが、課題に対しどう対応するのかが見えない。

令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価
2	子どもと教育	12 子どもの育ちの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「居場所の提供」という記載について、公共の既存の施設活用では限界があると思っている。とはいえ、新規の建設は難しい中で、具体の既存施設の活用が示せると良いが検討が必要であろう。 ・アンケート指標の2・3について、「自分にはよいところがある」ということを探るのは難しいと考える。 ・中高生の居場所について、アンケートをとるのはよいが、市としての方向性が分かると良いと思った。 ・指標の2・3の目標値の差異はどういうことか。また、100%の目標値設定が適切かどうかについて疑問を感じる。100%は非現実的であり、好意的に答えようとする意識を持たせてしまうといった内面への介入に繋がってしまう懸念がある。属性別に限定した指標の設定を検討しても良いのではないか。 ・評価の理由が前年度の指標値を上回ったという、数値のみを見ているため、どういことをやったかという定性的な観点も踏まえ記載いただけると良い。 ・居場所づくりの具体性がない。 ・アンケート指標1について中学生以下の子どもをもつ親の意向を全体平均とは別に確認したほうがよい。 ・アンケート指標2については100%の目標が高すぎるように思う。なにごととも全員一致を求めると息苦しくなるのでは。 ・子どもの居場所づくりについて直接公的機関が行えないか。
		13 子育て家庭の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の学童保育の運営整備〜とある中で、総括・自己評価の中でもう少し具体的に表記すると良いのではないか。 ・課題の2点目について、こども家庭センターが運営されているため、もう少し具体的に記載できると良いのではないか。 ・指標については妥当と感じた。 ・総括・自己評価の1文目について、意味が理解できなかった。主述の関係性が見えづらいため、記載を検討されたい。 ・評価の理由について、妥当性が疑問である。 ・総括・自己評価の2文目について、こども家庭センターの開設と窓口が身近に不足していることにつながりが分かりづらいと考える。本当に不足しているのか懐疑的である。また、開設の周知が足りていない等も考えられるのではないか。総括・自己評価の内容ではなく、課題に記載した方がわかりやすいのではないか。 ・評価の理由について、指標の数値の変化で定型的に決まっているのでないのであれば、改善が考えられるのではないか。 ・子育て世帯をアンケート指標の母数とした方が良いのではないか。 ・アンケート指標1については実際に子育て中の市民の意向を全体平均とは別に確認したほうがよい。 ・総括・自己評価の2つ目について、窓口不足との分析だが、広報の弱さにかかわるものかもしれないと感じる。
		14 子育て・子育て環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にある広報不足はそのとおりと思うが、他方で周知は行っていると思うので、その中でなぜ伸びないのかという原因分析が必要ではないか。ネットワーク協議会の加入団体が116団体もあるにもかかわらず腹落ちしない。 ・Doの主な取組の内容が曖昧であると感じる。具体性を持たせて検討・記載してほしい。 ・課題について、広報が課題とある中で、総括・自己評価では周知の成果が出ているという記載もあり、項目を通じた一貫性がなく矛盾があるように感じてしまう。 ・課題の「移動式赤ちゃん休憩室の貸出件数が伸びていない」がわからなかった。 ・広報が課題とある中でActionに反映されていないのではないか。 ・アンケートの市民の割合について、子育て世帯を母数とすべきではないか。そうした場合、50%を目標とすることは難しいだろう。 ・アンケート指標1については実際に子育て中の市民の意向を全体平均とは別に確認したほうがよい。
		15 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・総括・自己評価など、具体的に記載されており理解しやすかった。 ・課題に「教育委員会の体制強化」について言及されているが、Actionに記載されていないと感じた。 ・指標1・2の目標が100%というのは非現実的と感じる。楽しいと感じない児童生徒が少なからずいるという前提で施策を検討してほしい。 ・総括・自己評価に記載の「海の移動教室」の場所変更について、ネガティブな要素での変更ではないかという噂を耳にしていたが、そういう理由ではないことがわかりよかった。 ・評価の理由について、数値以外も評価していることがわかり個人的には良いと感じた。 ・働き方改革について施策評価で言及されているため、計画の内容としても反映させた方がよいのでは。 ・アンケート指標1については実際に子育て中の市民の意向を全体平均とは別に確認したほうがよい。特に学齢期の子どもを持つ保護者の動向は、一般の市民の動向と大きく異なっている。 ・目標が100%になっているのは高すぎるのではないか。 ・「保護者の信頼感情勢の基盤となっている」という記載の根拠がわからない。
		16 学校環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの件など気になる内容が記載されているため内容の妥当性は感じる。Actionにもう少しこの内容を記載いただけると良いと感じた。 ・指標1の結果が悪くなっていることに加え、目標60%は高すぎるのではないか。 ・指標2の進捗が見えないものの、トイレの改修など進んでいることなどあるため、評価の内容については比較的妥当と感じた。 ・指標2について、目標値があるものの実績として表れていないため、指標として機能していないと感じる。 ・アンケート指標1については実際に子育て中の市民の意向を全体平均とは別に確認したほうがよい。 ・上記につき、地域による満足度の違いもあるのでその点にも注意が必要であると思う(総括・自己評価において四小、南小のトイレ洋式化の件が触れられており、次回の意向調査でその効果がみられるか確認すべきであろう)。

令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価
3	文化と生涯学習	17 芸術文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・貸館利用率がコロナ前の参加者に戻ったのは良い。国登録有形文化財5周年とあったが指標数値が変わっていない原因を把握していただきたい。 ・コロナ前に戻ってきている肌感はあるが、指標が向上していない。アウトリーチがどれくらい寄与しているか、根拠のあるデータを示してほしい。 ・他自治体との連携、外部への発信などについては今後の課題という印象を受けた。 ・指標1について目標に半分にも満たない部分について、背景・原因を考察する必要がある。 ・はげの森美術館、宮地楽器ホールともに精力的にイベントをやっているが、指標の達成には結びついていない。 ・市民交流センターの指定管理者に対し、担当課が強い意志表示し、行政としての方向性を示すべきと考える。 ・指標の達成率がどちらも増加していることは評価できる。 ・芸術文化振興計画推進事業、市民交流センター、はげの森美術館とも堅実な取組がなされている。 ・指標が伸びているが目標を下回っているため、アウトリーチ事業がどれだけ効果があったのか把握する必要がある。
		18 国際交流・都市間交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1は目標達成していて良いが、指標2の交流事業参加人数が増えていない点が気になる。 ・外国人も増えている中で、指標2が増えていないのは懸念点である。 ・小金井市には三つの大学があり、留学生も来ているため、留学生との交流ができるようにしていくと良い。 ・海外の都市との交流を実施していくことも検討すべき(桜などを媒介に)と考える。 ・都市間交流(三宅島など)についても考えていくタイミングに来ていると感じる。 ・三宅村以外の交流に力を入れて行っても良いと感じる。 ・指標の達成率が漸次増加していることは評価できる。 ・国際交流事業、他自治体との交流も趣旨に沿った取り組みがされている。 ・コロナの影響と考えられるが交流事業の目標参加人数を達成していない。
		19 人権・平和・男女共同参画の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・こがねいパレットの著名な方を招くと参加者も増えるというのはその通りで、力を入れて取り組んでいる。 ・当日キャンセルに対して対策を取れているのかと感じた。 ・このくらいの指標を簡単にクリアできるようにしていただきたい。地道にやっていくしかない。 ・4つの指標をみると横ばいであり、ハラスメント等の身近な人権について、生活の中に落とし込んでいないと感じるため、身近に感じられるようにしていく必要がある。 ・行政職員はハラスメントにさらされる立場なので、行政職員も気持ちよく仕事ができる環境を作っていく必要がある。 ・指標3のイベント参加率について、年々低下している。イベントそのものがマンネリ化していることが原因なのではないかと感じる。東京都の人権部など関連する自治体や団体とタイアップし、マンネリ化を解消していくことが考えられる。
		20 生涯学習の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・「名勝小金井(サクラ)名勝指定100周年記念事業」などがあったのに指標としては下がってきている。特に指標2については目標に対して、乖離があるため、目標を下げた方が良く感じる。 ・指標1、2共に伸び悩んでいる印象。例年通りやっているということだが、例年通りでは数字が伸びないと感じる。多様なアプローチが必要であると認識している。 ・生涯学習は多様な分野で活かされ得るため、その必要性について、生涯学習の担当部署だけでなく、その成果が活かされる他の部署についても連携していく必要がある。 ・「名勝小金井(サクラ)名勝指定100周年記念事業」については参加したが、心と力のこもった良いイベントであった。青少年科学の祭典など小金井ならではのイベントを頑張っている。図書館・公民館については、委託にて多様なイベントをスムーズに進んでいる部分もあり、指標ではわからないが力を入れて取り組んでいる。 ・部活動の地域移行について緑中学校で実証的に開始できている。 ・頑張っている割に指標の数字に結びついていないことは気になる。 ・新たな計画策定に向けて今まで通りではない生涯学習について打ち出していけると良い。
		21 スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・指標について回復してきており、コロナの影響を脱してきており良い傾向である。目標値基準ではもう少しといったところ。 ・指標にはないが、スポーツ振興については人材育成も大切なため、ケアしていく必要がある。 ・行政の自己評価は的を得ている。 ・スポーツは人間の欲求(健康増進など)だけでなく、コミュニティの形成や文化・アイデンティティの形成、経済的な効果についても影響があるため、生涯学習課だけではなく、他の部署とも連携してやっていくことが肝要であると感じる。 ・総合体育館などの指定管理者が変わったことで、どのように変わっていくのかを注視していきたい。 ・健康課でも介護福祉でもスポーツをやっているため、社会体育という枠だけでなく、庁内横断的な取組を実施していく必要がある。

令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価	
2	福祉と健康	22	福祉のまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1・2について、指標1が下がっている中で、指標2が上がっているというちぐはぐな感じであり、違和感がある。総括・自己評価やActionに、指標1の改善に向けた具体的な内容を記載できると良いのではないかと。 ・指標1について、市民全体の割合とすると当事者の評価を正確に反映された結果になっていないと感じる。助け合える関係性といっても、助けを既に享受している層や助けを求めている層や助けを必要としていない層など様々おり、カテゴリによって結果も変わってこよう。例えば、助けを求めている困っている層に回答を求めると、助け合えると言い切れずNoと回答する層が一定程度いるのではないかと。 ・指標1の助け合える関係性が傾向的に減少していることが懸念される。これまでとは異なる手を考える必要があると思う。
		23	高齢者の生きがいの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の1点目について、水準に戻っていない内容を具体的に記載してほしい。 ・取組を行っている中で、活動量が増えていないとあり、このまま同じ方向で取組を進めてよいかどうかについて、改めて検討いただく必要がある。 ・指標1・2が前年度から下がっているのに、評価として「一定の成果が上がっている」という内容に違和感がある。 ・ボランティアは自発的に行うことが前提であるため参加に関する目標値を設けることは適切でないと考える。
		24	高齢者が暮らし続ける仕組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・Doの内容について、もう少し現場の内容を記載いただけると良いと感じた。福祉の現場の変化が激しいと感じているため。 ・評価の理由をもう少し具体的に記載してほしい。 ・指標2について、累計の数字のようだが、新規の数値とするなど検討が必要ではないかと。 ・指標1については高齢者の回答者の傾向を一般的な回答とは別に確認すべきだと思う。 ・指標2については累計ではなく増分を指標とすべきではないかと。
		25	障がい者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1について、減少傾向が見て取れ、指標2よりも重要な指標と考えるため、評価の「一定の成果が上がっている」の内容に違和感がある。 ・指標1について、暮らしやすさが向上していないことが見られるため対策が必要。
		26	健康の維持・増進	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1について、高齢者が増えるほど低下しうる指標のため、年齢別の設定などが必要ではないかと。 ・Doを見ると良い取組であるのに関心が低下傾向となっているため、広報不足が見て取れるのではないかと。 ・評価理由がもう少し詳しいと良い。 ・健康に関しては指標1・3が目標に近づいている。 ・食育への関心が向上しない理由を分析する必要がある。

令和7年度施策評価の長期計画審議会コメント案

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価
3	行政運営	27 市民参加・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1はリアルな数字、もう少し積極的に市民に参加してもらい取り組みが必要である。 ・指標1、2共に目標値50%に対して半分程度の実績しかない。身近な協働の事業、協働の在り方を浸透させていく取組を打ち出していく必要がある。 ・協働という概念が市民に定着していないと推察できる。行政主導では上手くいかないため、市のために良い取組をしている活動を、市が見つけて支援するというスキームが肝要である。 ・「市民協働準備室」について、準備室ではなく「市民協働室」にしていく必要がある。 ・自治体主催の若者イベント(若者討議会など)に参加した若者は、市政参加の意識が芽生えると感じるため、そういったイベントを実施していく必要がある。 ・協働に対する考え方を市も再整理する必要があるのではないかと。
		28 積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・市報についてはリニューアルによってよくなった。市民からも評判が良い。 ・Xについては成果が出ているため、LINEについても力を入れていただきたい。 ・公式の広報ツールが充実してきたため、ターゲットに応じて使い分けるなど、効果的な情報発信を実施していただきたい。 ・指標について全体的に低い水準のため、もう少し高い水準に持って行きたいと感じる。 ・HPは市の顔のため、もう少しデザインを凝っても良いのではないかと。 ・LINEの新設や市報のリニューアルについても取り組めており良いが、HPはやはりリニューアルが必要。見たい情報にたどり着くには階層が深すぎるケースもある。外部の有識者の力を借りて行く必要がある。 ・職員だけでは広報の専門性が不足してしまうため、行政管理下でアウトソーシングを積極的に行うべき。
		29 計画的な行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1はそもそも目標値が低すぎるのではないかと。 ・職員としては努力しているが、それが市民の満足度に結びついていないことが懸念。伝え方などについても考え、仕組みづくりをしていく必要がある。 ・行財政については、横糸を通すことで効率的な推進をしていく必要がある。 ・DXについては初期投資は負担ではあるが、今後のことを考えると必要であると考えます。 ・DXは選任2名で担当しているが、市長公室として全庁的に進めて行く、外部の力を使って進めて行くなどの必要がある。 ・職員は普段スマホを使うような生活をしているのに、それと自身の仕事はまだ結びついていない。生成AIの活用についても推進していく必要がある。 ・付加的にふるさと納税に積極的に取り組む必要がある。